

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 3 号）の送付について

このことについて、下記のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願
いします。

記

情報の内容 **ビワキジラミの発生地域の拡大について**
対象作物 **ビワ**

1 発生状況

- (1) 令和 4 年 6 月上旬に、昨年の発生地域（徳島県及び香川県境）より西側に調査範囲を広
げたところ、発生地域は約 3 km 西側に拡大していることが明らかとなった（図 1）。
- (2) 調査は、野良ビワ及びビワ栽培園を対象に行ない、27 地点中 7 地点で発生が確認された。
なお、今回の調査において、黒く汚損される「すす病」被害果の発生が 1 地点で確認され
た（写真 1）。
- (3) これまでの発生経緯（参考）
 - ① 令和 3 年 2 月に四国中央市の徳島県境付近のビワ樹周辺に設置した黄色粘着トラップで、
ビワキジラミ成虫が県内初誘殺された。
 - ② 令和 3 年 5 月下旬に徳島県境から西側へ 10km までの 41 地点のビワ樹を調査した結果、
県境から約 5 km までに所在する 11 地点で本種の寄生が確認された（写真 2）。

2 被害の特徴

主に幼虫が排出する甘露と呼ばれる排泄物には、糖分が含まれており、この排泄物が付着し
た果実や葉に糸状菌（カビ）が発生し、黒く汚損される「すす病」被害を生じる。果実が肥大・
成熟する 5～6 月頃に顕著な被害をもたらすが、袋かけを行う前の 3 月時点で既に果房や幼果
の隙間に寄生しているため、袋かけを行っても被害を防ぎきれない。なお、本種が寄生・増殖
できる植物はビワだけである。

3 今後の防除上の注意と対策

- (1) 徳島県と香川県の発生事例によると、1 年に最大 10km の速さで分布を広げていることか
ら、新たに発見された地点から半径 10km 圏内のビワ栽培園でも防除を実施する（図 1）。
また、成虫は黄色に誘引されるため、侵入が警戒される園地では黄色粘着トラップによる
モニタリングを行い、発生の早期把握に努める。
- (2) 防除適期は、果実袋かけ前の 3 月頃と、摘房・摘蕾後の 11 月中旬頃の 2 回あり、その時
期に薬剤散布する。それでも収穫時の被害が多い場合は、成虫多発期の 7 月上旬までに追
加散布する（表 1）。なお、薬剤散布時には展着剤を加用する。
- (3) 人為的な拡散防止のため、発生地域からの苗木や枝葉を移動させないように注意する。特
に、発生地域の道端や雑木林などで野生化したビワを伐採した場合、地域外へ持ち出して
処分することは控え、発生地域内で適切に処分する。

※ビワの果実や枝葉で激しい「すす病」の被害が認められた場合は、病害虫防除所または果樹
研究センターまでご連絡をお願いします。

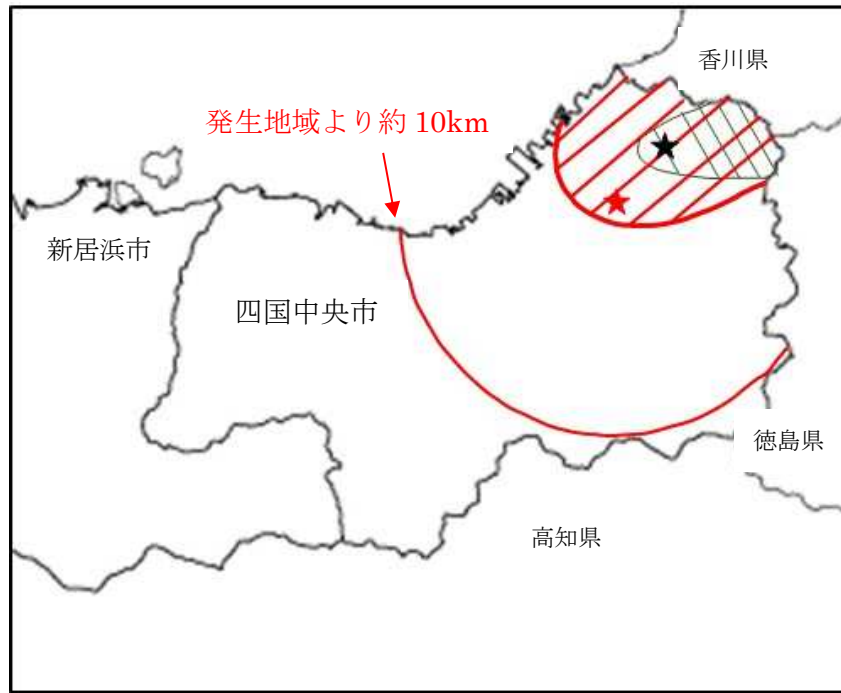


図1 ビワキジラミの発生状況 (R4)

 : R4.6月時点の発生確認地域、★ : 発生地点のうち最も西側の地点
 : R3.6月時点の発生確認地域、★ : 発生地点のうち最も西側の地点



写真1 すず病の果実被害



写真2 ビワキジラミ成虫

表1 登録農薬一覧 (令和4年愛媛県農作物病害虫等防除指針より)

IRAC コード	農薬名	希釈倍率	使用時期	使用回数
1 B	スプラサイド乳剤 40	1,500 倍	開花期まで	2回以内
21A	サンマイルト水和剤	3,000 倍	収穫3日前まで	2回以内
3 A	スカウトフロアブル	2,000 倍	収穫3日前まで	3回以内
	ロディー水和剤	2,000 倍	収穫前日まで	3回以内
4 A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫前日まで	3回以内
	スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫前日まで	あわせて 2回以内
	アルバリン顆粒水溶剤			